

勸善懲惡 讀切講釋

小幡啓代
手紙伝

忠次
抄



大木堂 狸昇記

草
其の積や良きをばさるる人

民谷伊右門
有り夫を恋慕ふ娘が親の甘れより民谷を伊藤
毒薬ふりたる母房お岩が
忌目も白る門火の魂の去らで恨を伊右門の日頃の積悪をとりもふ
なぐの底へ道あるべ一家類根を絶し其執念の雲をれて
四谷の今も賑しくお岩稲荷と崇めりも民谷の滅亡
暴悪不道を懲さん後の證と思へり

